

令和元年度 兵庫県立農業大学校評価シート

【教育目標】
国際化する農業に対応するとともに、地域社会の多様化等、変化の激しい農業に対応する幅広い知識、高度な農業技術及び経営管理能力を修得させ、地域社会の有為な形成者となる意欲的な農業の担い手と地域農業を牽引する指導者を養成する。

【重点目標】
① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保
② 実践的教育の充実・強化
③ 多様な進路に向けた学生指導の充実
④ 学生の自主活動の活性化

【達成度】の基準
A 目標を上回っている
B 目標通り進捗している
C 目標を下回っている

重点目標：① 次代の農業を担う意欲の高い学生の確保

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度
〈 現状 〉 ○平成22年度以降は出願者が概ね定員を超えて推移していたが、30年度入学者は23名にとどまった。このため、様々な学生確保対策を講じ、令和元年度は、48名の受験があり最終的に37名が入学した。 ○これまでオープンキャンパス参加者の多くが入学試験に出願しているが、平成30年度高校3年生の参加者35名であり受験者も19名(54%)にとどまった。 令和元年度は54名のうち33名が受験している。 ○農業高校や農家からの入学者が減少している ○女子学生の割合に年次変動がある。 〈 課題 〉 ○農業に対する意欲の高い学生の確保 ○多くの出願者から選ばれた優秀な学生の確保	オープンキャンパス、学校訪問、イベント、ホームページなど様々な機会やツールを活用して農大の魅力を情報発信し、農大に対する高校生たちの関心を高め、出願者を増加させる。	〈 方策 〉 ○年2回のオープンキャンパス開催とオープンキャンパス以外の個別見学者の積極的受入 ○学校訪問(学生募集)の実施 ・農業高校への学校訪問及び学生募集 ・農業高校・普通高校等を対象とした進路ガイダンスへの参加 ○広報活動の推進 ・市町、農協、普及センター及び高校等に対する農大のPR活動 ・ホームページによる情報発信 ・オープンキャンパスを含む各種イベント開催の記者発表 ・各種イベントへの参加及びその場でのPR活動 ・同窓会の支援により、神戸新聞への広報記事の掲載 〈 指標 〉 ○オープンキャンパス参加者：60人以上 ○オープンキャンパス参加者に対するアンケートでの農大入学希望：7割以上 ○県内の高校で開催される進路ガイダンスに赴いての学生募集：10校80人以上 ○入学試験出願者数：定員40名以上 ○ホームページによる情報発信：月2回以上	○定員確保対策検討会の開催(H30) 農業改良課、総合センターと定員確保対策の検討会(4回)を実施し、県内農業高校の教員・生徒に対する悉皆アンケート実施及び具体的対策を策定 ○オープンキャンパスの実施 ・前年と同じ2回(8/6、22)開催した。HP、学校訪問でPRを行い事前に学生と打合せを十分行い内容充実に努めた。3年生参加者 H29 55名内35名→H30 66名内52名→R1 80名内54名 ・アンケート調査では48名(72% 昨年65%)が農大に入学したい。3年生では78%が進学を希望した。 ○学校訪問による学生募集の強化 ・7月に過去複数名進学実績のある8高校を訪問し、進路担当教諭等に農大の説明を行った。 ・県内の高校での進路ガイダンスの場に赴き、農大への進学を強くPRした。特に地元で就職できることをメリットとして説明 H29年 7校63人 H30年11校 110人 R元年度8校72名 ○広報活動の推進 ・学校案内、募集ポスター及び学生募集要項を市町・農協・普及センター等関係先に配付した。(6月) ・学生の動きや学校行事などトピックスを中心にホームページでの情報発信を強化した。 H29 14回 H30 84回 R1 110回(2月末現在) ・新しい農業を目指す高校生等の集いに参加し、農大と各農高の学生が意見交換を行った。(11/14) ・農大収穫祭(11/16・17)及び県民農林漁業祭(10/19・20)等に参加して農大をPRした。	○R1年度に引き続き、高校訪問、進路ガイダンス等による農業大学校における教育の内容の周知と、幅広い人材の確保 ・入学者の期待する教育内容の充実 ・市町、JA、普及センター等を対象としたPR活動の継続・拡充。 ○オープンキャンパスの内容の再検討・充実(映像を入れる等) ○学校訪問の強化継続的实施 ・進路ガイダンスへの積極的参加 ・進路ガイダンス案内の来ない農業系高校への説明訪問 ・学校案内希望者へ積極的案内 ・複数名進学実績のある高校を訪問し、進路担当者に教育内容、卒業生の進路説明等を実施 ○ホームページやマスメディアなどのツールを利用した情報発信の強化 ・学校案内の更新(継続)	○元年度取組に対する意見・評価 ・オープンキャンパス・学校訪問ほか、広報活動の継続は大切なことで、農大のPRを積極的に実施したことは評価できる。 ・目標を上回っている。特にオープンキャンパス、ホームページによる情報発信及び神戸新聞への広報記事掲載については頑張って成果を得ている。 ・30年度の入学希望者は少なかったが、全校あげての取組により回復させた努力に敬意を表したい。今後とも意欲の高い学生の確保に努力してほしい。 ○提言 ・四年生大学卒業者に対して、農業の実践の場を勉強する機会として農業大学校をPRできないか。特に農学部のある大学へのPRを充実。 ・農業高校、普及センター、JAなど農業関係機関との連携を図り、農大の特色をPRし、幅広く優秀な入学希望者を確保する。 ・意欲の高い学生確保のため、引続き農業高校のみならず普通高校等への魅力ある農大としての積極的な情報発信とともに、高校生が農大を訪れ農業に触れる機会の創出に努めていただきたい。	A

重点目標：② 実践的教育の充実・強化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度																																																																				
〈 現状 〉 ○普通高校出身者の増加に伴い、入学時に学生間の農業に関する知識・技術の格差が拡大している。 ○教育目標・方針に沿った適切なカリキュラム編成に向け毎年見直している。 ○実習を重視した実践的な教育を行っているが、キャリア教育が不十分 ○資格の積極的な取得を奨励しており、主要な資格には担当職員を充てて濃密な指導を行っている。また、大型特殊自動車運転免許や家畜人工授精師等は実習に組み込み資格取得をしやすい体制づくりに努めている。 〈 課題 〉 ○農業の基礎学力の充実と学生の技能・知識の向上 ○教育目標・方針に基づく実践的な農業教育の実施 ○専修学校として特色ある学校づくりを推進 ○卒業論文課題研究の中に経営的な視点を入れ、厳しい農業情勢の中にたくましく発展的な農業経営を続けるノウハウや信念を養成する必要がある。	農業の基礎的・基本的知識を確実に習得させ学力向上を図る。 資格試験・検定試験のチャレンジ、合格率向上	〈 方策 〉 ○各種事業や制度を利用した実践型教育を強化するための環境整備 ○直売施設（夢花菜）や県民農林漁業祭、収穫祭等での販売体験を通じて、原価計算や経営管理能力を養う ○基礎学力向上への取組：1 学年末には農業に必要な計算、文書読解、文書作成を履修 ○キャリア教育を実施（コミュニケーション能力、ビジネスマナー教育等） ○教務会議でのカリキュラム検討、教育課程の編成 ○実習計画の十分な検討、計画に基づく実習実施 ○多くの機会を捉え資格取得を奨励する 〈 指標 〉 ○委員会の提言を受けた新たな取り組み ○資格・検定試験の合格者・合格割合の目標 ・大型特殊免許（農耕） 卒業生全員合格 ・農業機械利用技能者 7 割合格 ・指導農業機械利用技能者 5 割合格 ・毒劇物取扱責任者 5 名以上合格 ・危険物取扱者 10 名以上合格 ・農業技術検定 3 級：全員合格 2 級：7 割合格 1 級：1 名以上合格 ・家畜人工授精師 畜産課程全員合格 ・フォークリフト、アーク・ガス溶接、小型車両建機 全員合格 ・全国プロジェクト・意見発表会での発表、上位入賞 ・懸賞論文応募 5 名以上 ※ 過去の受検・合格状況から目標値を設定	○イオンアグリ創造（株）との連携協定を締結（1 月）し、締結を前に現地研修（6 月）や講義（9 月）を実施した。 ○6 次産業化施設での加工品試作品作成（H30～） また、東洋食品工業短期大学とも連携協定を締結（H30）した中で、6 次産業化教育の充実強化を図っている（10 月） ○実践型教育を強化するため、JA 共済連兵庫からの寄贈による農業実習用機械の整備を行った。（8 月） 土入れ機 1 台 ホイールローダ 1 台、牛舎監視カメラ ○交雑種 4 頭を導入し、但馬牛との生育比較を行いながら、但馬牛の飼養管理技術の向上を図っている。 ○直売施設、県民農林漁業祭、農大収穫祭に加え、地域直売所、農産加工グループ、JA レストラン等との連携し、販売を実施 農林漁業祭では、花壇苗が行列ができる盛況ぶりであった ○ドローン実演等スマート農業についての授業を充実した。 ○教務会議を増加（21 回）し、教務職員間の意識統一を行った。 ○学業等奨励制度により学生の意欲を向上させた。 ・知事賞、校長賞授与：成績、学習態度が優秀な学生 ・同窓会長賞：成績優良かつ欠席、遅刻等がない勤勉な学生 ・鶏梨会学生支援奨励：資格・免許取得数の多い学生 ○大型特殊免許の補講、追試験実施により 2 年生全員が取得。 ○農業機械利用技能者（農業機械士）は 70%以上が合格した。 ○毒劇物取扱責任者、危険物取扱者、農業技術検定 2 級の合格者は目標未達成。 ○農家派遣研修と連携した経営講座を開設（1 単位）（新規） ○農業法人協会による相談会 2 回 ネクストファームによる講義 1 回 ○日商簿記検定 2，3 級の補講を実施した <table><tr><th colspan="4">R1 卒業生の資格・免許取得実績</th></tr><tr><th>資格・免許 名称</th><th>受験 者数</th><th>合格 者数</th><th>合格率</th></tr><tr><td>大型特殊免許（農耕限定）</td><td>14</td><td>14</td><td>100.0</td></tr><tr><td>農業機械士</td><td>18</td><td>14</td><td>73.7</td></tr><tr><td>指導農業機械士</td><td>9</td><td>5</td><td>55.6</td></tr><tr><td>毒劇物取扱責任者</td><td>2</td><td>1</td><td>50.0</td></tr><tr><td>危険物取扱者</td><td>1</td><td>1</td><td>100.0</td></tr><tr><td>農業技術検定 3 級</td><td>12</td><td>12</td><td>100.0</td></tr><tr><td>2 級</td><td>12</td><td>2</td><td>11.8</td></tr><tr><td>1 級</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>家畜人工授精師</td><td>5</td><td>4</td><td>80.0</td></tr><tr><td>フォークリフト</td><td>15</td><td>15</td><td>100.0</td></tr><tr><td>アーク溶接</td><td>7</td><td>7</td><td>100.0</td></tr><tr><td>ガス溶接</td><td>5</td><td>5</td><td>100.0</td></tr><tr><td>小型車両建機</td><td>6</td><td>6</td><td>100.0</td></tr><tr><td>懸賞論文応募</td><td>0</td><td>0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>全国プロジェクト・意見発表会</td><td>発表者 2</td><td>優良賞 1</td><td></td></tr></table>	R1 卒業生の資格・免許取得実績				資格・免許 名称	受験 者数	合格 者数	合格率	大型特殊免許（農耕限定）	14	14	100.0	農業機械士	18	14	73.7	指導農業機械士	9	5	55.6	毒劇物取扱責任者	2	1	50.0	危険物取扱者	1	1	100.0	農業技術検定 3 級	12	12	100.0	2 級	12	2	11.8	1 級	3	0	0.0	家畜人工授精師	5	4	80.0	フォークリフト	15	15	100.0	アーク溶接	7	7	100.0	ガス溶接	5	5	100.0	小型車両建機	6	6	100.0	懸賞論文応募	0	0	0.0	全国プロジェクト・意見発表会	発表者 2	優良賞 1		○基礎的知識の確実な習得 ・非農家・非農業高校出身者の農業高校レベルの基礎的知識技能の早期習得 ・学生のレベルに合わせた教育の実施（選択制等） ・スマート農業教育実施、ドローン講座創設 ○資格取得の支援 ・農業技術検定、農業簿記等資格取得を目指した内容での講座の実施 ・資格取得に向けた学生の到達度調査、学習スケジュール管理を実施する。 ○実践型教育の強化 ・農産物加工施設を利用した 6 次産業化教育の強化。 ・JA 共済連兵庫による支援制度をさらに活用し、より高度化・専門化する農業教育に対応できる環境整備を行う。 ・農家派遣実習等を活用した現場での実習を強化する。 ・機械整備、農機具の使用等を学ぶ演習の実施 ・販売強化のためのカリキュラム創設	○元年度取組に対する意見・評価 ・実践的教育を進めるため、外部連携を積極的に進めているところは評価できる。求める学生像を意識したカリキュラムや施設整備を引き続き進めてほしい。 ・資格・免許取得は学生のモチベーションを高める効果もあり、評価できる。 ・現地研修により実践的農業を深く学ぶことができた。イオンアグリ創造（株）の研修では経営開始資金、運営資金など資金面について詳しく学ぶことができた。 ・難しい資格取得の挑戦者が少ない。合格率 100%の資格にはさらに多くの学生を挑戦させ、取得者を増やす必要がある。 ・実践型教育を強化するための環境整備に対して、資材不足ではないか？非農家・非農業高校出身者に農業高校レベルの基礎知識技能の早期習得を進め、農業高校レベルを超えた学習内容が必要。イベント等販売を通じた経営管理能力を養うことに対して、全員が参加、体験する機会が少なく、能力差が生じないか。 ○提言 ・実践教育の強化のため、農業現場での指導経験が豊富で青少年育成にも精通したスタッフの確保が必須である。 ・自営農業者の育成はもちろんのこと、農業関連事業等で農業を支援する指導者の育成を。 ・県内農業高校との連携協定の締結により、農大と農業高校との教育内容の相互理解を図り、県内の担い手育成を強化する。 ・カリキュラムに現実的な農業経営の講義を充実させる。イオンアグリ創造（株）から事業計画の講義を望む。連携協定により農業経営能力の高い人材を輩出すれば全国規模で貢献できる。 ・イオンアグリ創造（株）をはじめ企業の経営を行う農業法人や地域特産品（ブランド産品）を生産する担い手への実習機会を増やすなど、本県農業への関心がより高める取組を一層進めていただきたい（プロから直接学び、様々な「気づき」を実感することが非常に重要）。 ・普通高校出身者の農業知識・技術の習得とともに、農業高校生から見ても魅力のある実践的な教育内容充実のため、先端技術への対応や実践的な到達度を確認しながらの学習スケジュール管理等に、より一層取組み願いたい。	B
R1 卒業生の資格・免許取得実績																																																																										
資格・免許 名称	受験 者数	合格 者数	合格率																																																																							
大型特殊免許（農耕限定）	14	14	100.0																																																																							
農業機械士	18	14	73.7																																																																							
指導農業機械士	9	5	55.6																																																																							
毒劇物取扱責任者	2	1	50.0																																																																							
危険物取扱者	1	1	100.0																																																																							
農業技術検定 3 級	12	12	100.0																																																																							
2 級	12	2	11.8																																																																							
1 級	3	0	0.0																																																																							
家畜人工授精師	5	4	80.0																																																																							
フォークリフト	15	15	100.0																																																																							
アーク溶接	7	7	100.0																																																																							
ガス溶接	5	5	100.0																																																																							
小型車両建機	6	6	100.0																																																																							
懸賞論文応募	0	0	0.0																																																																							
全国プロジェクト・意見発表会	発表者 2	優良賞 1																																																																								

重点目標：③ 多様な進路に向けた学生指導の充実

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度																																							
〈 現状 〉 ○法律に基づく無料職業紹介事業により、進路担当者を定め、個々の学生に対する就職相談・指導に取り組んでいる。 ○非農家出身で生産基盤を持たない学生が増加しており、就農の形態も自営就農だけではなく、農業法人等への雇用就農が増加している。 ○直近5年間（H25～H29）の進路決定率は98％であり、就農率は36％、就職率は55％（うち農業関連産業等は47％）で、進学率は6％である。 ○学生の就農・就職後のフォローが出来ていない。 〈 課題 〉 ○学生の進路決定率及び就農率の向上を図る。 ○卒業後の多様な進路に対応できる教育活動を実現する。	進路希望や就農・就職活動状況の把握 進路決定のための情報提供 卒業後の多様な進路に対応できる進路指導	〈 方策 〉 ○就農・就職支援活動の強化 ・インターネット接続環境整備による情報収集支援 ・面接・マナー講座を開催 ・職員の学生ごとの進路希望の情報共有 ・就農希望者への特別教育の実施 ・人材投資資金関係の説明会、相談会の開催 ・農業関連企業志望者への特別教育の実施 ・学生からの希望に応じたハローワーク等からの求人情報の収集と、模擬面接会等への参加を推進 ・兵庫県農業法人協会と連携した雇用就農への取り組み強化 ・就農・就職後の就農・勤務状況の把握とフォローの実施 〈 指標 〉 ○進路決定率：90% ○就農、農業関連企業内定率：80%以上	○1年生を対象に、農業法人派遣研修を実施（10/29～31のうち3日間）雇用就農を受け入れている県内のJA等出資法人やICT取組会社等3社の研修で雇用就農の実際を学んだ。 ○2年生農家等派遣実習の実施（8/29～10/7 40日間）先導的農家等で農業経営と農家生活を実践体験し、優れた経営感覚と豊かな農業観や職業観を学んだ。 ○農家派遣実習をフォローアップする講座の開設 ○姫路市と連携し、市内の先導的農家、法人への研修を実施した（12/13, 1/19） ○加西市、加西普及センターより、雇用就農に関する勉強会を開催（9/25） ○青年農業クラブ員との意見交換会開催 ○ゆめファームを見学しJA兵庫六甲農業経営者育成塾の説明を受けた（2/27） ○農業法人協会による就職相談会への参加（6/18） ○農業法人協会による1年生を対象とした雇用就農に関する相談の実施（1/18、2/18） ○上記の公式行事以外にも、3日間から1週間程度の農家研修参加等 ○個人面談の実施 校長2回、就職担当、専攻・担任による面接は随時 ○面接・マナー講座の開催(4/19, 1/20) 採用試験前の面接練習は随時。 ○2年生の進路決定に関する情報を職員間で共有 進路担当教員が、学生への就職紹介と可否を進行管理した。月1回の職員会議や随時開催の教務会議等で職員間の情報を共有した。 ○ひょうご就農支援センター及び各農業改良普及センターと連携した新規就農希望者へのサポートを実施 ○農予定者に対する支援施策等説明会の開催(9/1) 農業次世代人材投資資金等の支援策に関する説明 ○インターンシップ就業体験（2～3月）5名 <table><tr><th colspan="5">R1 年度卒業生の進路内定（R2 年 2 月末現在）</th></tr><tr><th colspan="2">卒業生</th><th>22</th><th colspan="2">内訳</th></tr><tr><td rowspan="2">就農</td><td>自営</td><td>1</td><td>5</td><td rowspan="3">30 (96%)</td></tr><tr><td>農業法人雇用</td><td>4</td><td>(23%)</td></tr><tr><td rowspan="4">就職</td><td>農協等団体</td><td>6</td><td>16</td></tr><tr><td>農業関連産業</td><td>9</td><td>(73%)</td></tr><tr><td>公務員</td><td>1</td><td rowspan="2">(4%)</td></tr><tr><td>その他産業</td><td>1</td></tr><tr><td colspan="2">進 学 等</td><td>0</td><td>(0%)</td><td rowspan="2">1 (4%)</td></tr><tr><td colspan="2">未 定</td><td>0</td><td>(0%)</td></tr></table> 進路決定率：100％ 就農率：23%農業関連：96%	R1 年度卒業生の進路内定（R2 年 2 月末現在）					卒業生		22	内訳		就農	自営	1	5	30 (96%)	農業法人雇用	4	(23%)	就職	農協等団体	6	16	農業関連産業	9	(73%)	公務員	1	(4%)	その他産業	1	進 学 等		0	(0%)	1 (4%)	未 定		0	(0%)	○早期からのキャリア教育の実施と、雇用就農に関する意識づけ ・専門家による職業選択に関する講座の開設 ・2年生を対象にした農家派遣研修、を就農意識醸成のため1年生へ移行する。そのため移行期間としてR2年度は各学年20日毎に短縮して実施する。 ・1年生を対象にした農業法人への派遣研修などインターンシップは継続実施 ・農家派遣研修のフォローアップを行う講座の充実 ・農業法人等への現地研修の増加 ・県農業法人協会と連携した就職相談会の拡大 ・他業種からの法人等との連携 ○多様な進路情報の提供 ・ハローワーク支援員と連携した就職セミナー開催 ・就農予定者に対する支援施策等説明会の充実（実施時期・方法の検討） ・安心して就農できるように、近年の就農・就職後の卒業生の勤務状況等を把握し、就農・就職情報を収集する。 （R3 年度過去就職実績のある雇用法人訪問調査数10社以上） ・4年生大学編入希望者向け進路指導	○元年度取組に対する意見・評価 ・学生それぞれの進路相談は充実している。進路を決めていないまま農大に入学した学生が多く、個々の学生に応じた対応は大変だが、進路決定率100％は評価できる。 ・農業関連の進む学生が多いのは大学校の目的に合致している。 ・卒業生の進路は学校の目標として一番大事なものであり、進路決定率98％は優秀な実績である。学校の設置目的からして目標が低いかと思うがどうか。 ○提言 ・定期的に「農大に期待すること」に関してアンケート調査が必要だと思う。対象：農業法人、農協等関連産業、派遣実習農家、農業高校、農業改良普及センター、就農支援センター、農業改良課、保護者など ・農業基盤のない非農家出身者には在学中より、市町・普及センター等と連絡を密にし、計画的に就農できるような指導体制の構築を。 ・雇用就農等の多様な進路に対応した指導とともに、県内で活躍する農大OB農業者などのネットワークを活用した就農活動の充実拡大に引き続き取り組み願いたい。	A
R1 年度卒業生の進路内定（R2 年 2 月末現在）																																													
卒業生		22	内訳																																										
就農	自営	1	5	30 (96%)																																									
	農業法人雇用	4	(23%)																																										
就職	農協等団体	6	16																																										
	農業関連産業	9	(73%)																																										
	公務員	1	(4%)																																										
	その他産業	1																																											
進 学 等		0	(0%)	1 (4%)																																									
未 定		0	(0%)																																										

重点目標：④ 学生の自主活動の活性化

現状、課題	評価項目	具体的方策及び評価指標	経過・達成実績	次年度の課題と改善策	学校評議委員会の意見提言	達成度
〈 現状 〉 ○本校は全寮制であるため地震や火災発生、インフルエンザ等伝染病発生時の学生の安全性確保体制が随時の対応になっている。 ○収穫祭や東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会等の行事運営が、学生の自主的な活動で実施されていない。 ○先生の指示に従って行動するが、自分たち自主的に活動しない。 ○寮内の整理整頓が不十分であり改善の余地がある。 ○学生間等でトラブルが発生することがある。 〈 課題 〉 ○危機管理体制の構築 ○学生の自主的な活動を支援 ○寮の環境美化と快適な寮生活の実現	危機管理対応の初動訓練等、安全確保対策の実施 学生生活環境の整備改善 社会規範意識を高め、基本的生活習慣の適正化	〈 方策 〉 ○震災、火災時の対応に役立つ防災訓練を消防署の協力のもと実施、焼却を行う場合の責任者等の明確化 ○交通、防犯、防災講座を通じ社会的ルールの遵守 ○寮生活（自治会活動）を通して社会人としての心構えを学ぶ ・講義受講態度、実習取り組み態度 ・自動車等使用許可、防犯・防災意識 ・健全な寮生活 ・学生自ら企画運営する農大収穫祭において販売実習を実施（再掲） 〈 指標 〉 ○危機管理のための訓練・講習会の実施 防災訓練 1 回 交通安全講習会 2 回 ○収穫祭の学生主体での実施と学生の全員参加 ○兵庫県農林漁業祭への学生の積極的参加 10 人以上 ○寮の環境美化と快適な寮生活の実現 年間 10 回程度	○消防署の協力により、学生及び職員参加による防災訓練と消火訓練（5/21）を実施した。 ○警察署の協力により、交通安全講習会を 2 回（7/26、12/20）実施した。 ○感染症対策危機管理マニュアルを更新した。 ○H31. 1 月下旬のインフルエンザ発生時（23 名発症）は職員による受診支援と出席停止措置、在宅学習への変更等により、重症者を出さず、早期に収束した。 ○R1 は新型コロナウイルス発生により、卒業式の延期や規模縮小等感染防止に配慮して実施した。 ○地元自治会との学校周辺環境美化作業（5/15）や校内環境整備活動を 10 回実施し、校舎・寮に対する美化意識を醸成した。 担当職員による寮内環境の定期的な点検、改善について助言している。 ○校則や寮生活における遵守事項や学生間のトラブル等は自治会が集会を実施し、学生間で発生した問題を話し合うように誘導している。職員間は、教務会議で情報を共有化し、対応を協議している ○学校行事（スポーツ大会、農大収穫祭等）を通して、学生間の仲間づくりを進めた。 ・近畿・東海ブロック農大スポーツ大会（5/30-5/31 三重） ・青年クラブ意見交換会（6/28） ・県民農林漁業祭（10/19, 20） 学生 20 名参加（野菜 8 花き 12） ・みかた和牛会と農大生との交流会（1/10） ・新しい農業を目指す高校生等のつどい（11/14） ・農大収穫祭（11/16-17）準備・当日など全員参加	○危機管理・健康管理対策の徹底 ・危機管理マニュアルの徹底 ・防災訓練・消火訓練の実施 ・交通安全講習会の実施 ・感染症対策危機管理マニュアル更新（新型コロナウイルスも検討） ・異常の早期発見、対処等学生の健康管理の徹底 ○学校内外の環境整備 ・地元自治会活動、イベントへの学生自治会としての積極的参加 ・定期的な環境整備活動時間の確保、寮の環境美化と快適な寮生活の実現 ・学生の生活指導の充実改善 ・自治会との連携・指導の強化 ・学生の自主活動推進のため外部機関による研修等の実施 ・部活動・市内スポーツ大会等へ積極的参加 ・収穫祭の自主的運営、県農林漁業祭への積極的参加	○元年度取組に対する意見・評価 ・学生自治会の活動は自主的な活動が基本だが、自治会内の役員、担当の役割と三役との意思疎通が十分か？定期的に懇談する必要があるか？ トラブルを未然に防ぐために、三役のガス抜きができる対応が必要と思う。 農大収穫祭は、学生には負担となっているのでしょうか？最近、物足りなさを感じます。フードコートの充実よりも大根・白菜が山積みになった収穫祭でPRできないか。 ・現状を読んでA評価とする意図が理解できない。収穫祭は学生が自主的に動いているように見えますが。 学生たちに意向を聞くだけでなく、どうしたら良いのかを考えさせながら参画させるようなやり方をすればどうでしょうか ・学校生活では団体生活なので感染症対策などの危機管理の徹底や学生たちの自主的活動への支援。 ・同窓会とも交流を図る。 ・農大の特長の 1 つである規則正しい寮生活による基本的生活習慣の励行と自治会活動を通じた自主的活動の喚起により、社会人としての心構え・行動を身に付けられるよう引続き指導願いたい。	A